

- 管内に進出したお菓子メーカーから小豆の供給依頼があった。
- 管内に小豆産地はなく、小豆栽培には収穫、選別の負担が大きいという課題があった(※以降、小豆は「赤い小豆」、白小豆は「白い小豆」を指す)。
- この課題解決を目指して、平成24年から収穫作業の機械化と密植栽培におけるコンバイン刈りの適性を検討した。
- その結果、**小豆のコンバイン収穫が可能**であること、**密植栽培は、コンバイン刈りの収穫ロスが少なく、収量向上に寄与**することが確認された。同時に、**他の生産者もコンバイン収穫体系に取り組みはじめた**。

具体的な成果

普及員の活動

1. 生産について

- 実証ほの結果、密植栽培は機械収穫及び収量向上に寄与することが確認された。
- 小豆は、平成25年目標収量(目標100kg/10a、実績135kg/10a)を達成した。



(コンバイン収穫)



(コンバイン収穫した小豆)

2. 販売について

【平成24年】

- 供給したサンプルは、色、硬さ等の加工適性が評価され、平成25年産の取引が決まった。

【平成25年】

- 契約内容について生産者から案を提示し実需者側で協議してもらうこととなった。
- 出荷日程、形態等について生産者と実需者間の申し合わせを行った。

- 実需者から正式に小豆、白小豆の供給依頼があり、これに対して出荷実績を作った。



(目合わせ会)

1. 生産について

【平成24年、平成25年】

- 小豆、白小豆の特性把握と機械収穫体系を検討するための実証ほを設置した。
- 生育期間中に生産者、実需者との巡回を実施。

2. 販売について

【平成24年】

- 8月、11月に実需者、生産者を交えたほ場巡回及び意見交換会を行った。
- 11月に小豆、白小豆を実需者へサンプル供給した。

【平成25年】

- 6月に実需者と生産者の間で契約及び出荷形態等に関する打合会を実施した。
- 12月に目合わせ会を実施した。

普及員だからできたこと

1. 生産について

- ・短期間での栽培技術の蓄積や他県情報の提供

2. 販売について

- ・生産者と実需者の意思疎通を円滑に進めるための意見交換会などの設定や調整役としての役割
- ・生産者の意向を的確に捉えること